

認知症初期の妻の状態をふりかえり、いま思うこと

(その1)

高田 芳信

平成 29 年 11 月 18 日に、小倉南区田原市民センターで私たちの会の理事であり、軽度認知障害(MCI)当事者である高橋英二さんの講演会が開かれました。主催されたのは小倉南区田原校区社会福祉協議会 認知症活動委員会です。地域にいる久保哲郎理事が働きかけ、私や役員と2度ほど話し合いがもたれました。認知症活動委員会の活動は“認知症になっても安心のまち”を目指しています。この講演で私にも25分程、お話しをということで、レジメを準備しました。

それは「認知症初期の妻の状態をふりかえりいま思うこと」で30年前に発症した頃からのことです。それを会場に参加した方に配布しました。でも講演では時間が足らず、他のことを話しました。会報誌の編集委員会では野村尚子編集長より私の介護の状態を会報誌に掲載したいと言われました。相当昔の会報誌に掲載したこともありましたが、多くの方は知らないなので「いま思うこと」の視点を加え、書いてみようと思い立ちました。拙い文章ですがよろしく願いいたします。

認知症になる前の頃

◆母の葬儀で妻の帽子が失くなった

私の妻は昭和8年(1933年)の生まれです。当時は病院に勤務し仕事は会計でした。おかしいなと思うことがみられたのは昭和62年(1987年)頃からです。私の務めは博多であり、仕事一本やりで朝早く出て、夜も遅く帰るので妻の状態をよくみることをせず、申し訳なく思っています。昭和62年(1987年)の6月に私の母が亡くなりました。その法事が終わったあと、妻は帽子が失くなった、私は4人兄弟の長男で、三番目の弟の妻が盗ったというのです。そんなことはないだろうと私は否定していましたが、その後、義妹に「あなたが持って帰ったのでは？」と私の知らないところで話したようです。特別トラブルことはありませんでした。母が亡くなり、ご仏前をいただいた会計の整理を堪能な妻にお願いしたら、「お父さんして」と断られました。この時はどうしてだろう、病院の仕事が忙しいのかと思いました。病院の会計は、月末から翌月始めにかけて診療報酬の請求をしなければ、病院にお金はいりません。徹夜することもあります。大変な激務です。当時は計算を算盤でしておりました。5月の連休などはいつも仕事に出て、一緒に旅行など全然できない状態でした。



認知症初期の妻の状態をふりかえり、いま思うこと (その2)

◆腰や背中が痛くなり入院、そのあとおかしなことが続く

母の葬儀で妻の帽子が失くなる事件の頃に、朝や夜などに妻が一人家にいる時に、男性から電話がかかり、「今ひとりですか、ひとりであれば、お宅にお伺いしましょうか？」と怯えているのです。不思議に私と一緒にいる時は、かかってこないのです。私がいるかないかをよく知って、電話を妻にしているのかと私も不安になりました。9月に電話局に行き、手続きして電話番号を変えました。また、この時期には私がまだ会社で仕事をしている最中に、早く帰ってきてほしいと電話がかかることがありました。妻も会社務めですから仕事でそんなに自由が利かないことはよく知っているのにも思いました。年末頃から妻は腰や背中が痛むと言いました。私は勤めている

病院で早く、診察をうけたがよいと言っていました。妻も忙しく年明けて昭和63年(1988年)の1月25日に、小倉市立病院に行くことになり、同行しました。そのあと、産業医科大学、健和会大手町病院にも、同行して診察に行きました。結果として3月2日に最初診てもらった小倉市立病院に入院することになりました。変形性腰痛症という診断でした。

私が仕事帰りに妻を見舞いに行くと、喜んでくれましたが、なぜか同室の患者さんに気づかいをしているようで、必要以上に私の紹介をしたりしていました。およそ一か月半で退院することができました。

その後、妻は風呂の火を消すのを忘れたり、務め先で妻もそうですが、職場でエフコープの品物を持ってもらい、それを家に持ち帰る時に妻は他人のものを間違えて持ち帰ったりしました。日にちが何日かわからなくなりました。私もこれはおかしいと思い、9月7日、今でも覚えています。私の誕生日に飯塚市のMクリニックに私と一緒に行きました。診てもらうことに妻は反対して、自分が病院関係で北九州市内は行きたくないというので、飯塚市内の



クリニックを選びました。脳波を検査して同年代の方の脳波と比較して、先生はそんなにおかしいことはない。仕事が負担すぎるのではないのでしょうか。軽くしたらとの指摘でした。ほっと安堵しました。妻の職場の理事長から電話がかかり、奥さんの件でお話しがしたいとのことで11月29日にお会いしました。理事長から、「会計窓口をしているが、今受け付けた人からお金をもらったかどうかと気にされています。帰る時には夜勤者との引継ぎも前は2分で終わっていたのが、10分

かかります。何かにつけ物忘れがひどいと職場で話題になっています。今の業務でよいのか、他の単純作業がよいのか、医師にみてもらって、指示を受けてもらえるようにしていただきたい」という内容でした。そういえば、日常生活では風呂の火の方は私も気を遣いみしていますが、私が風呂に入るのを見ながら、お風呂にはいったねと聞いたり、なぜか、小物入れを持っているねと聞くので「持っていない」と答えているのに間をおいて、何度も聞いたりしました。



認知症初期の妻の状態をふりかえり、いま思うこと

(その3)

前号で9月に飯塚市のMクリニックに妻を連れて行ったこと、11月に妻が職場でよく物忘れがあり、専門医にみてもらうよう上司からの指摘があったことを書いたが、その間、10月で起きたことが抜けていました。お詫びして掲載させていただきます。

◆お金を払ったが、 品物をもらうのを忘れた！

10月10日に甥の結婚式が京都の全日空ホテルであり、妻と行きました。式場にいよいよ入ろうとした時に、妻が「黒の揚げカバンがない」と言う。先刻トイレに行ったので、そこに忘れていたのではと言うと、妻は再度探しに行ったが、「なかった」と帰ってきました。私も念のために探しに行ったら、トイレの吊り具に掛けてあったのが見つかりました。すぐわかるはずなのに、妻は見つけきりませんでした。結婚式が終わり、京都駅の売店で土産物を買った、新幹線の入場へ急いでおりましたら、妻がさっき売店でお金は支払ったが、品物をもらうのを忘れた、売店に戻ろうというのです。よく見ると、自分の右手に品物はぶら下げているのです。新幹線の車の中では、職場でも何かトラブルが起きてはいないだろうかと不安な思いでいっぱいでした。

こうして前号掲載のように職場の理事長からしっかりした病院で妻を診てもらうようにとの指示があり、私はそれを重く受け止めることができました。

◆九大付属病院で診察、検査入院へ

さて、妻にどうお話しして病院に行くようにするか、難問をかかえました。

反対されるのではないかと思いました。理事長命令だと話すと、予想外に受け入れ、12月1日に妻を連れ、博多の九州大学付属病院に行きました。

診察では「今日は何日ですか？」に答えられず、土曜日か日曜日と答えました。(この日は木曜日でした)。自分の勤めがない日と思ったのでしょうか。5つの品物、万年筆、腕時計、鍵、などを先生は目の前の机に並べ、覚えてくださいよと言い、話題を変え他の話しをして、さっき並べたものを言ってくださいと妻に質問しました。これに対して妻は2つの品を答えるにとどまりました。先生は毛筆で、眉に両側触れてどちらが強く感じますかと質問。妻は右の眉、下の頬では左側、更にその下も左側と答えました。右の耳があまりよく聞こえないこと、腰痛の時も精神不安定の時があり、今は肩が痛いこと、鼻も悪く、つばがしょっちゅう出ることなど症状を訴えました。改めて脳波も検査しました。

その結果、
12月9日に
検査入院を
すること
になり
ました。

